

様式（第8条関係）

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和元年度益田圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和元年12月26日（木）13：30～15：00
開催場所	益田市立市民学習センター 研修室202
出席者	○出席者 [懇談会委員] 神崎委員（会長）、金子委員（副会長）、月森委員、田村委員、森田委員、原委員、斎藤委員、伊藤委員、三浦俊光委員、小川委員、村上委員、三浦祐二委員 [事務局] 益田市政策企画課 志田原課長、山本課長補佐、岡藤主任主事 [連携自治体] 津和野町つわの暮らし推進課 内藤課長 吉賀町企画課 深川課長 [事業担当課] 益田市農林水産課 椋木課長 益田市健康増進課地域医療対策室 山路主査 ○欠席者 [懇談会委員] 喜島委員、小澤委員
議題	○重要業績評価指標（KPI）の進捗状況について ○平成30年度実績、令和元年度取組予定の事業について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0名
問合せ先	政策企画局政策企画課 電話 0856-31-0121

審議経過

1. 開会
2. 重要業績評価指標（KPI）の進捗状況について
<p>※次第2と3の順序を入れ替えて説明。</p> <p>○重要業績評価指標（KPI）の進捗状況について事務局より報告（資料2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局からは主に、KPIの進捗率（H30年度の実績値を目標値で割ったもの）が7割を切っている事業について説明する。 ・通番10「高津川水産物安定確保事業」は、アユの漁獲量を目標値としている。アユ漁師が高齢化していることや、アユそのものの減少による資源確保のために漁の期間を縮小していることなどが原因と考えられる。 ・通番16「再生可能エネルギー導入促進事業」は、導入した太陽光発電システムの総出力を目標値としている。売電価格の下落や、設置に対する補助が、現在は県補助の40,000円のみとなっていないこと、設置後にメンテナンス等のランニングコストがか

かること等により、太陽光発電の人気の落ちていることが原因と考えられる。

- ・通番 20「高規格道路等整備促進事業」は、三隅益田道路の事業進捗率を目標値としている。進捗率 42%は、予算ベースでの事業進捗率である。新聞報道にもあったが、現在のところ、事業完了予定は令和 7 年度となっている。
- ・通番 21「文化・スポーツイベント交流事業」については、進捗率は 7 割を超えているが、益田市の実績値が減少している。萩・石見空港マラソンにおいて、H29 年度まで 10 回開催した中で、開会式でのキャパオーバーやスタッフの負担等の課題があり、H30 年度に運営を見直した。今後も大会を継続するため、定員の削減を行っている。
- ・通番 24「地域の担い手人材育成・確保事業」は、関連する講座・研修会等の開催回数を目指している。吉賀町において実績が 0 回となっているのは、対象としている講座等を実施する事務局が役場から民間へ移行し、講座等の開催に至らなかったためと思われる。

○前回会議（平成 30 年 11 月開催）での質問に対する回答

- ・前回の懇談会において、各委員からいただいた質問等に関し、説明する。
- ・KPI の設定に関して、ビジョン本文の【形成協定の内容】と KPI が乖離しているのではないかとのご指摘をいただいた。これについては、【形成協定の内容】の記述は複数の「具体的な取組内容」をまとめた内容となっており、ビジョンの記述に矛盾は無いのでこのままとさせていただきます。
- ・観光振興の取組に関し、インバウンドの交流人口を増やすための取組をビジョンに追加すべきではないか、また、目標値を増加させるべきではないかといったご意見をいただいた。インバウンドに関しては、現時点では各市町とも、外国人観光客受入れのための環境整備を行っている段階である。「観光入込客数」の目標値については、まずは現在掲げている目標を達成すべく、取組を進めていきたい。以上のことから、現段階では、インバウンドに関する項目の追加と目標値の増加を明記することが難しい状況である。
- ・観光ルート等の面での連携状況について関係課に確認した。萩・石見空港利用促進の一環として、首都圏の旅行会社等からの旅行商品の提案を受入れている事例がある。H30 年度の空港を利用した団体旅行企画商品の造成実績は、東京線で旅行コース 44 本、利用席数 33,094 席となっている。

委員	<p>インバウンドに関して、今は取組んでいない状況かもしれないが、取り組まなければいけないことを課題として形成し、取組んでいくべきではないか。</p> <p>昨年の時点で、津和野町では取組を行っていてインバウンドは増えているが、実数を把握できていないため、見える化するのが課題だとのことだった。全国的にインバウンドが増えている状況で、県内は石見と出雲で 4~5 倍の差がある。観光客を取込んでいかないといけない状況は変わらない。取組むべきことを課題化して提案するのが行政の役割ではないか。取組んでいないからビジョンに挙げられないという説明は理解できない。</p>
委員	<p>前回の会議では、インバウンドの観光客は、観光地を見るというよりも日本の文化を体験する流れに移行しているのではないかと、ということで、対象をどこに絞るか、という話があったと記憶している。</p> <p>これまでの観光事業の概念とは違い、言葉の面、お金のやり取りの面、交通手段や宿泊等の面で、システムが供給されているか否かがポイントになるのではないかと考えている。津和野のように、地域の文化が出せる地域では、観光地だけ見せて終わりではないだろう。そのあたりを検</p>

	<p>討していただきたいと思う。</p>
委員	<p>やらなくていいということにはならない。現状を踏まえて、今のレベルから何ができるか、連携してやらないといけない。交流人口の増加と言いながらインバウンドに取組まないのはあり得ない。</p>
事務局	<p>インバウンドに関しては、今後も必要な取組と認識している。先ほどの説明のとおり、益田市においては、Wi-Fiの整備など、外国人観光客を受入れるための整備を行っている。益田圏域には萩・石見空港もあり、空港利用促進の観点からも、外国人観光客の誘致は必要と思っている。</p> <p>圏域では津和野町が観光地として有名なので、広域的な観光を担当課で検討しているが、現時点では具体的なものが提示できない状況だ。提示できるようになり次第、委員の皆様にもご報告したい。</p>
委員	<p>匹見で民宿を経営する立場として、平成29年度に対して30年度は、外国人観光客が900%増だった。しかし、民宿（古民家）は益田市の資産だが、家賃が10倍に跳ね上がり、撤退せざるを得なくなった。また、一昨年まで、「ビジット益田」というインバウンド向けのサイトがあったが、現在は無くなっている。</p> <p>インバウンド対策の準備をしているとの説明があったが、益田市は逆行しているのではないか。</p>
委員	<p>民宿に関しては、折衝の余地が無いか検討していただきたいと思うが、共通して言えることは、各課題に対し、ワーキンググループができているかどうかだろう。行政ですべてやるのは、とても無理だと思う。ビジョンにこれだけの項目があるのだから、少なくとも20くらいのワーキンググループがあってもおかしくない。それがリンクして初めて行政的な指標ができると思う。無駄なものを省いて、取組を推進していくには、そういった仕組みが必要と思う。</p>
委員	<p>資料2の通番23の空家確保・活用に関して、空家の利用を総合的な政策の中に入れていくように考えれば、利用価値が生まれるのではないかなと思う。人口減少を食い止める施策ともリンクする。施設として利用するのも1つの考え方だと思う。</p>
委員	<p>資料2の通番20番にある、三隅益田道路の進捗についてだが、新聞報道で2025年（令和7年）開通と出ていた。ビジョン策定時には令和3年度には完成する予定だったが、実施する段階で状況が変わってきて、スケジュールがずれたということか。</p>
事務局	<p>担当課に確認したところ、ビジョンを策定した段階での国の発表は、令和3年度の完成を目指すというものだった。</p> <p>遅れている理由は、一概には言えない。国から聞いているわけではないので明確にお答えができないが、近年は災害が多く発生しているので、その復旧対応の必要があったことも理由のひとつと考えられるのではないかな。</p>
委員	<p>そうすると、このような報道を踏まえて、今後ビジョンの目標値をどうするかということも考えていかなければいけないと思う。</p>
<p>3. 平成30年度実績、令和元年度取組予定の事業について</p>	
<p>○平成30年度実績、令和元年度取組予定の事業について事務局より説明（資料1）</p>	

- ・前年度比で事業費が大きく増減している事業について、主に説明する。
- ・通番 7～10「医学生等育成支援事業」では、医師や看護師、社会福祉士等を目指す学生に対し、奨学金の貸与を行っているが、H30 年度は奨学金の利用希望者が少なかった。
- ・通番 12「在宅当番医制事業」は、今年度の予算額が 0 円となっている。鹿足郡内の在宅当番医制度が H31 年 3 月末をもって廃止となったことによる。4 月以降は、津和野共存病院、六日市病院で休日の救急患者を受入れている。
- ・通番 30「農産加工推進事業」は、吉賀町において嘱託職員の配置を行ったため、事業費が増えている。
- ・通番 51、52「観光地基盤整備事業」では、H30 年度に道の駅サンエイト美都や美都自然の森キャンプ場の建物・トイレ等の改修を行った。
- ・通番 54「萩・石見空港利用拡大支援事業負担金」は、前年度の利用者数が 12 万人を下回った場合に空港の圏域の市町（浜田市、益田市、津和野町、吉賀町）で負担することとなっている。H29 年度、H30 年度とも利用者が 12 万人を上回ったため、実績、予算とも 0 円となっている。
- ・通番 55～57「再生可能エネルギー導入促進事業」は、KPI の実績でも説明したとおり、H30 年度の太陽光発電の補助実績が伸びなかったことによる。
- ・通番 72「スポーツ施設整備事業費」は、益田市陸上競技場の改修経費だが、H30 年度で改修が終わったため、今年度の予算額は 0 円となっている。
- ・通番 73「東京オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致事業費」は、H30 年度に、益田市がアイルランド自転車競技団のキャンプ地として決定し、自転車を活用したまちづくりの推進を加速させていくため、事業費の増となっている。
- ・通番 80「地域自治組織支援事業費」では、設立済みの地域自治組織に対して、財政支援を行っている。益田市において、地域自治組織の設立が加速していることから、事業費の増となっている。

委員	<p>医療関係の取組について、医師、看護師の確保が問題となっているが、具体的に、この取組で医者が来るだろうか。</p> <p>津和野・吉賀は、在宅当番医制度がなくなっている。大変だろうと思いが、そういった対応に関し、補助金を出す等、検討の余地が無いか。医療での対応が難しければ、予防施策に重点を置いたり、交通手段の面で津和野・吉賀から益田までの支援をしたりするなど考えられないだろうか。</p>
委員	<p>在宅当番医については、事務局から説明があったとおり、六日市病院、津和野共存病院で対応しており、制度を廃止して 10 か月程度経っているが、現時点で大きな苦情は無いと聞いている。益田市内で当番医をされている病院に患者が流れているかもしれないが、今のところはそれで回っていると解している。</p>
委員	<p>医師の招聘に関して、歓迎事業や住宅の改修、就業一時金等で予算を支出しているが、効果がみられるか。</p>
委員	<p>益田圏域ほど歓迎事業をやっているところは他に無いのではないかと。それなりの効果が出ているのではと感じている。</p>
益田市健康増進課	<p>益田市では医師の歓迎事業を行っており、市長も参加している。先日も日赤で行ったところだが、医師の方々には、このような歓迎をしてもらったのは初めてだということで、喜んでいただいている。</p>
委員	<p>予算を投じている分、効果は出ているようだ。</p>

	<p>資料1の通番17「地域医療確保緊急対策補助金」に関しては、ここで決められる問題ではないと思うが、保健所や市全体で考えなければいけない。具体的に、介護士を何人入れた等、支援した部分がどこかを提示いただくと分かりやすい。</p> <p>通番19～23の事業（「地域医療を守る体制の確立」に関する事業）については、結果を出すのが難しい分野だ。先生方の活動が情報誌等に載るだけでも効果があるのではないかと思う。小学生～高校生に対して普及啓発をやっても、すぐに結果に結びつかないが、やり続けることが必要だと思う。</p>
委員	<p>地域の産業について、わさびやアユなど、ブランド化を図りつつも資源が減っている現状もあると思うが、ご意見は無いか。</p>
委員	<p>わさび、ゆずに限らず、各品目で市には協力いただいているが、わさびの生産振興については、JAとしても苦慮している。生産基盤が弱っており、どのように手を打つかが問題だ。加工場の運営もあるが、入ってくる原料が減っているため、事業的には赤字が続いている。加工場の建物自体は無償で借りているが、生産力が弱いので稼働状況が悪い。そういったこともあり、年間で300万円程度の赤字が6年間続いている。JAしまねに合併して、本店からも、財政的に、これ以上の事業展開ができるのかということ強く言われている。それでも地域を守るために、赤字覚悟でとも思っている。</p> <p>生産振興をする上で、既存のものを大切にしていけるのはもちろんだが、バイオ苗など、新たな分野での生産振興でも予算を有効に活用させていただきたい。</p> <p>また、加工場のありかたについても、もう少し掘り下げた会議をしたいと思っている。</p>
委員	<p>アユの資源状態は相変わらず悪く、今はブランド化よりも、どう増やすかの方が問題である。</p> <p>「がんばる事業」の中で、アユを電照で飼育して、産卵時期を遅らせた親のアユを放流するという取組を行っていて、今年で3年目となる。流下仔魚とって、稚魚が海へ出ていく量を毎年調べているが、ここ3年間は、H29年が1.1億、H30年が5.3億、今年が9.2億と、だんだん増えている。電照のアユを放流しているせいか、流下の時期も、以前は10月後半がピークだったが、ここ2か年は11月上旬がピークとなっている。漁獲量に結びつくのはまだこれからと思うが、努力した効果の兆しが表れたと感じている。</p> <p>ただ、県の「がんばる事業」が今年度で廃止となり、今のところそれに代わる事業が無い状態だ。電照事業も、このままでは継続が難しいと思っている。せっかく効果が見え始めたところなので、継続したい。市の協力をいただけないだろうか。</p>
益田市農林水産課	<p>アユの「がんばる事業」については、県の方でも、新たな事業をどのように構築していくかを検討中である。現時点で事業の内容が明らかになっていないが、県の状況を見ながら、市として支援ができることは協力する。</p> <p>また、県の方で、代わりになる事業が無いということになれば、どういった支援ができるか、津和野町・吉賀町とも協議をしたいと思ってい</p>

	る。
委員	漁業関係の方が集まって話をする会などはあるのか。
委員	振興協議会というのがあり、その中で各市町の首長にも集まっていた だき、話をする機会はある。協力はしていただいているが、協議会にも 予算がなく、難しい。
委員	林業にしてもそうだが、育成の問題がある。結果に基づいてとなると 予算が付かないと思うので、投資という形で、研究機関等へ支援するな どの政策を動かさないと、このままになってしまうのではないかと思う。 そのためには、行政が積極的に「会を作ろう」という働きかけをするの も必要ではないか。そういった活動も、ビジョンの項目に入っているの ではないかと思う。具体的に書いてあっても、この取組で何が伸びるの かという印象を持つ。
委員	通番 36～46 の、森林関係の取組についてはいかがか。
委員	<p>国の施策としては、植えて育てるというよりも、60 年程度前に植えた 木が今、生育期を迎えており、間伐材、あるいは 60 年以上経った主伐材 を切って出すということを行っている。</p> <p>間伐材に関しては、木材価格が低迷しており、市場に出しても搬出コ ストを賄うほどの価格にならない。そのために、補助事業を活用してい るという状況だ。ビジョンに「流域産木材活用支援事業」があるが、間 伐材や主伐材をいかに活かすかという問題がある。組合でも製材所を持 っているが、製材しても高く売れない。吉賀町や津和野町では、公共建 築に県産材を使っていたらいいのだが、益田市では鉄骨を使われる ということもあった。製材所で生産した材の需要が伸び悩んでおり、 休業するかどうかの瀬戸際まで来ている。予算的なことがあるので難し いとは思いますが、公共建築に、できるだけ県産材や流域産材を使ってい ただきたい。</p> <p>また、組合員や森林所有者から、山林を引き取ってもらえないかとい う相談もある。</p> <p>2024 年から森林環境税が賦課される。林業事業体にもメリットのある ように使い道を考えてほしい。</p>
委員	<p>益田圏域の資源は、水や山などの自然だ。それをなぜ利用しないのか かと思ひ、関係者に聞いてみると、相談するところが無いと言われる。ま た、前回の会議でも、流通がうまくいっていないという課題が出ていた。 また、これまでの話だと、製造の部分でうまくいっていないという問題 もある。そういったところを、このビジョンに入れられないかと思う。</p> <p>どの事業も、単体でやっても無理だと思う。例えば、住民が何を欲す るかを把握し、そこに供給する流通をどうするか、などということは、 リンクしている。</p> <p>これまでの取組の中で、いろいろと努力をされてきているが、次に活 かす、育成するステップが無いという印象だ。その部分について協力し 合おうというのがこの会議の目的でもあるように思う。そういう意味で、 支援が必要であればこの会議の場で言っていただきたい。お金の面だけ でなく、相談する場が無いということで困っておられるのなら、そうい った仕組みを行政から提示していただけないかと思う。</p>

委員	通番 47 からの観光に関する事業についてはいかがか。
委員	<p>津和野町の状況についてだが、インバウンドの観光客は増えており、外国人を見ない日はないほどだ。津和野町では、ある程度インバウンド対策の取組を行っている。</p> <p>外国人の方が来て困るのは、Wi-Fi 環境が無い、キャッシュレスに対応していない、サインが整備されていない等の問題だ。そこについて、それぞれの市町で誰が担当をして対応するのかが固まっていなと感じている。核となる人・団体を決め、そこに対する支援の強化がお願いできたらと思う。</p> <p>来年度、津和野町は廿日市市との交流で 400 年目を迎え、行政どうしで交流事業を行う予定になっている。それに併せて観光協会どうしでも協力体制を作り、宮島口でのインバウンド強化のための PR 戦略を考えている。それによって、益田圏域でもインバウンドが増える可能性はある。受入れ整備を早急に進める必要があると思う。</p>
委員	<p>医療の面でも、開業医として、外国人の方が受診されたときにカードでの支払いに対応できているだろうかと思う。商店でも、コンビニなどは対応しているが、一般の小売の商店が対応できるかが問題だ。</p> <p>言葉、宿泊の面でも整備していく必要があるだろう。</p> <p>インバウンド対策は、もっと進めるべきだと思う。</p>
委員	<p>道路、交通ネットワークに関してはいかがか。</p> <p>先ほども話があったが、三隅益田道路について、行政としては完成の目途を何年くらいと把握しているのか。</p>
事務局	現時点では、報道があったように、令和 7 年度という情報しか把握していない。
委員	そこから高速道路にどうつなげていくのだろうと感じているが、まずは、山陰道がすべてつながるということが大事だ。
委員	過疎地のバスについてはいかがか。
委員	<p>お金の面の問題もあるが、一番困っているのは人の問題だ。町民がいない。利用者が少ない路線を縮小することも、行政と相談させてもらいながら、何とかつないでいるのが現状だ。</p> <p>一昨年、三江線の廃止があった。廃線の半年ほど前に、代替交通について江津市から相談を受けて動いたが、お金の問題より人員をどう集めるかの問題がネックになった。人が減っている中、乗務員を増やさないといけないということで、江津市では少し変わったやり方をした。ハローワークで、大型二種の免許を持っている人をリストアップしてもらい、ダイレクトメールを送り、人を集めて説明会を行った。そのおかげで、廃線までに何とか間に合った。</p> <p>行政には情報と設備がある。ハローワークや市で把握している情報でも、民間には分からない情報もある。人の確保という意味で、バックアップが必要だ。乗務員が少なくなって、どこかの路線を廃止するといっても、半年から 1 年かかるが、事故を起こして業務ができないなどになったら対応する時間がない。乗務員の半数近くは 60 代だ。その中で、この地域のバス路線をどうやって維持していくか、とても不安だ。欠員を起こすくらいだったら、路線を減らすしかなくなる。できる限り頑張り</p>

	たいと思っているが、人の確保について、行政の協力が必要だ。
委員	今のご意見に関連して、質問したい。 益田圏域で、例えば、自動運転特区などの特別な条例を作って、自動運転によって交通を維持するといったことはできないだろうか。
事務局	現時点では検討していないというのが正直なところだが、国の方では、道の駅の整備に伴って自動運転の試験的な実施を考えているところもあるようだ。益田市においては、そこまで至っていないのが現状だ。
委員	医療などにおいては、定年を後ろにずらしたりという対応ができるが、運転手だとそうもいかない。
委員	現状、70歳定年にすると人が足りないので、半年に1回健康診断を受けてもらったうえで、本人のやる気があれば半年ずつ、恐る恐る延ばしている。
委員	輸送ルートの中で、物を運ぶのと人を運ぶのを共有できないだろうか。安全面の問題があるので、軽々しく言えることではないかもしれないが、例えば、コンビニなどの物の輸送の際に、予約をすれば人が乗れるなど、共有できるような制度ができればいいと思う。 先ほど説明のあった、道の駅を中心に、というのはいいアイデアで、そのエリアの中で車を動かすことは可能ではないかと思う。道の駅は、田舎では生活の拠点にもなっている。そこからの足と食品の確保と生活の支援がタイアップできないか。そういったことを考えるワーキンググループがあればありがたいと思う。
委員	人口減少が進んでいるので、制度の改正が後手に回らないようお願いしたい。
委員	タクシーとバスは連携できないものか。
委員	できなくはないと思うが、免許の条件が違うので、大型バスだと難しい。
委員	医療では、ジャンボタクシーを使っている。小規模の車でできないかと思う。
委員	スポーツイベント、担い手の確保事業に関してはいかがか。
委員	資料2のKPIについて、通番21「萩・石見空港サイクルステーション利用者数」とあるが、これは目標にするようなものなのか。目的は、自転車のまちを盛り上げていこうということだと思うが、サイクルステーションの利用は、そのための手段の手段ではないかと思える。自転車関係だと、例えば、INAKAライドなどのイベントを行っている。その参加者数の方がしっくりくるのではないか。「各マラソン大会のエントリー数の維持」も、参加率などにすれば、もう少し実態に合った目標設定になったのではと思う。通番24「地域の担い手人材育成・確保事業」の「関連する講座・研修会等の開催回数」にしても、うがった見方になるが、参加者がいなくても開催すればいい、となってしまう。もう少し実のある目標設定にするべきものがあると感じた。
委員	身近なイベントの成果が、全体として行政の中でどのように反映されているかの評価もいるのではないか。

	<p>自転車のイベントを行うときに、自転車を搬入できる宿泊場所がなかったが、ホテルが建った。そういう流れが身近なところで起きてくるために、地域で情報を提供してくれるような人材の確保は必要だと思う。医療の面でも、高齢者の見守りができる地域のシステムがいるだろうと感じている。</p>
委員	<p>全体として、何かご意見は無いかな。</p>
委員	<p>地域の人口がどんどん減っている。現行のビジョンは今年度が終わればあと2か年となるが、次期ビジョンを作るにしても、定住・産業振興・人口減少対策に重点を置いていかなければ、医療も維持ができないと思う。</p> <p>また、先ほども話があったが、山が荒れている。吉賀町のあたりは国有林が多く、昔は管理する職員が何百人もいたと思うが、今は野放しの状態になっている。今年千葉に来たような台風が来ると、川下の益田市はかなりの被害を受けるのではと思う。山の管理に関して新たな税も設けられるところなので、産業振興の観点も含めて、山に対しての予算配分をもう少し考えていただきたい。</p>
委員	<p>匹見においては、中村医院が無くなってしまうと命に関わる。救急車を呼んでも時間がかかる。</p> <p>先ほど自動運転特区の話をしたが、有人ドローン特区も検討していただきたい。救急車のように人が乗れるドローンで患者を輸送できるようになれば、人口が減ってサービスが行き届かなくなっても、人の命が救えるのではと思う。全国で人口が減っている中、人口減少は避けられないので、いかに影響を減らすかを考えると、テクノロジーにすぎるしかない。法規制があってもできないのであれば、特区を作ること考えてほしい。</p>
事務局	<p>案としてお示しできることがないのが正直なところだ。</p> <p>人口減少については、おっしゃるとおり、避けて通れないのが現状だが、急激に減りすぎているために、行政が取り組む施策の効果が出る前にさらに減ってしまっていて、追いつかない状況がある。今後、いろいろな課題に対して新たな計画を作っていくことになるが、急激な減り方もある程度考慮しながら、手遅れにならないように考えていきたいと思っている。</p>
委員	<p>益田市の人口減少対策の目玉は何か。</p>
事務局	<p>人口の考え方も、これまでは「定住人口」対策として、ここに住んでもらう、UIターンで来てもらうための施策が主だったが、それだけではなかなか効果が出ないということで、ここ最近は「交流人口」、「関係人口」という新たな人口の考え方を取り入れている。都会の方に一時的にでもこちらへ来てもらい、そこで良さを感じていただき、定住に結び付けていこうという、少し時間のかかるやり方になる。</p> <p>今日いただいたご意見は、定住をイメージしたご意見なので、そこに対してはカンフル剤としての効果が期待できないかもしれないが、まずは、益田を知ってもらうということから始めていく取組をしている。</p> <p>また、大学連携ということで、首都圏の大学生に来てもらって、都会の若者の目から見た益田の良さを都会に持って帰ってもらおうと取組ん</p>

	<p>でいる。</p> <p>時間がかかることは承知しているが、ひとつひとつ取組んでいき、そこで見えてきたことから効果的な施策を探していきたいと思っている。</p>
委員	<p>益田に移住してきた方は、人生をかけてここを選んだのだと思う。その人たちが、なぜ選んだのか、何が良かったのか、そういった情報を集めて、その人たちを核に発信してほしい。成果を上げている自治体は、そういったことをしっかりやっていると思う。</p>
委員	<p>活発な議論をいただき、感謝申し上げます。</p> <p>ビジョンにある 80 以上の事業はすべて関連していると思う。それをどうつなげていくのかということが大事だ。「これとこれとを結びつけて、こういう形にしよう」という作業をする必要があると思う。会議では意見を出すところまでしかできないが、それを練っていただきたい。大変な作業だが、よろしくお願ひしたい。</p>
4. 閉会	